

研究分担者

岡野 光博

国際医療福祉大学

教授

研究要旨

薬物治療満足度を評価する包括的質問票である TSQM-9 を用いて、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する Dupilumab の薬物治療満足度を評価した。有効性ドメインのスコアは 83.3、利便性ドメインのスコアは 72.2、全般満足度ドメインのスコアは 85.7 となった。いずれのスコアも、Dupilumab 導入前の副鼻腔炎治療に比較して高値を示し、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する Dupilumab での治療はこれまでの治療に比較して満足度が高いことが示唆された。

A. 研究目的

好酸球性副鼻腔炎は難治疾患であり、長期に渡る治療が必要である。一方、好酸球性副鼻腔炎に対する治療満足度については不明な点が多い。今回は、薬物治療満足度を評価する包括的質問票である TSQM-9（Treatment Satisfaction Questionnaire for Medication - 9）日本語版を用いて、鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する Dupilumab の薬物治療満足度を評価した。

B. 研究方法

20 歳以上の鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎患者のうち、最適使用推進ガイドラインの適応基準に合致し Dupilumab を 3 カ月以上使用した患者を対象とした。調査項目は患者背景、治療前後での投与薬物、TSQM-9 などである。

（倫理面への配慮）

自由意志で調査が行われた。

C. 研究結果

123 例を解析対象とした。全例が好酸球性副鼻腔炎であった。有効性ドメインのスコアは 83.3、利便性ドメインのスコアは 72.2、全般満足度ドメインのスコアは 85.7 となった。通院間隔は 8 週間隔の方が 4 週間隔よりも有効性ドメインスコアが高値で、注射間隔は 4 週間隔の方が 2 週間隔よりも利便性ドメインスコアが高値であった。また血中好酸球比率が 10%以上の患者や若年者で全般満足度ドメインが高値であった。Dupilumab 使用により全身ステロイドなどの薬物使用率は減弱し、59.3%の患者では Dupilumab 以外の薬物使用は不要となった。

D. 考察

過去に報告された鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する生物学的製剤導入前の薬物治療満足度は、有効性ドメインのスコアは 54.2、利便性ドメインのスコアは 62.9、全般満足度ドメインのスコアは 57.5 であり、Dupilumab を導入した今回の検討ではいずれのドメインスコアも有意に高値であった。

E. 結論

鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎に対する Dupilumab を用いた治療は、Dupilumab 導入前の治療と比較して有意に治療満足度を向上させた。好酸球性副鼻腔炎に対する抗体治療において、TSQM-9 質問票を利用した QOL 評価は有用である可能性が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Oka A, Kanai K, Higaki T, Makihara S, Noda Y, Kariya S, Ando M, Nishimura W, Okano M. Macroarray expression analysis of cytokines and prostaglandin metabolism-related genes in chronic rhinosinusitis. Journal of Allergy and Clinical Immunology Global. 2: 100123, 2023.

2. Oka S, Kanai K, Oka A, Kitamura H, Furutate S, Oyamada S, Takahashi M, Iwasaki S, Koike S, Mochizuki T, Okano M. A case of intractable chronic rhinosinusitis without nasal polyps leading remission after treatment switching from anti-IL-5 to anti-IL-4Ra monoclonal antibody.

2. 学会発表

1. 岡野光博、藤枝重治、Zach Soler、Andrew P. Lane、Zara M. Patel、Jose L. Mattos、Changming Xia、竹内まき子、Asif H. Khan、Scott Nash. 鼻茸を伴う慢性鼻副鼻腔炎患者における嗅覚障害と疾病負荷、および dupilumab の有効性との関連. 第 124 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会 2023 年 5 月 19 日.
2. Mitsuhiro Okano. Type 2 inflammation and clinically relevant improvements in CRSwNP with biologics. 13th Singapore Sleep, Allergy & Rhinology Conference. 2023 年 7 月 27 日.
3. 岡野光博. 鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎における疾病負荷と治療 Goal: 治療 Goal を治療満足度から考える. 第 62 回日本鼻科学会総会・学術講演会 2023 年 9 月 29 日.

H. 知的財産権の出願・登録状況(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他